

途上国に住む盲目の子供たちを支援する



NPO法人

ヒカリカナタ基金

Vol.5

2020 May. 発行

### 3回目のネパール 全土に広がる小児眼科医療 プロジェクトのネットワーク



2019年10月17日、私達ヒカリカナタ基金はネパールを訪問しました。これはヤマト福祉財団と共同のプロジェクトで、今回が3回目の訪問となります。今回も前回に引き続きネパールの子供たちの目の治療を目的とした「アイキャンプ」を開催しました。出来るだけ多くの子供を集め、その中から目の治療が必要な子供を見つけます。今回の会場はネパール西部に位置するバグルンという町です。周辺の村々から集まって来るたくさんの子供たち。受付をすませるとまずは視力検査を行います。それから立体視や色覚などさまざまな検査を行い、目に異常のある子供を探しました。2日間の日程で集まった子供は531人。そのうち先天性白内障や斜視を含め治療が必要な子供が7人発見されました。彼等は後日、首都カトマンズの病院にて無料で治療を受けることとなります。それからメガネを支給された子供が43人。メガネはアイキャンプ会場で検査後すぐに手渡されました。視界がクリアになった時の子供たちの笑顔はとても印象的でした。しかし悲しい事例もありました。長期間放置した眼病が重症化してしまい、今からの治療では手遅れの子がいたのです。もっと早

く出会ってれば治せたかもしれません。実は今までも、こういったケースが何件もありました。途上国では大人たちの不理解や西洋医学への不信、または「この子の目が悪いのは運命であり逃れようのない事なのだ」といった思い込みで眼病の子供が放置され、せっかくの無償治療の機会が失われてしまう事がめずらしくないのです。だとすればこんな悔しい事はありません。今後、より多くの眼病の子供を手遅れになる前に発見するためには、ネパール全土をカバーした探索ネットワークが必要不可欠です。このたび日本の認定NPOのJNFEA という団体が、この探索ネットワークの構築に協力して下さる事になりました。JNFEA は、ネパール人の女性教師育成に長年たずさわっており、今までに100人の小学校教師を育て上げたすばらしい団体です。おなご先生と呼ばれるこの教師たちはネ

パール全土にちらばって今日も教壇に立っています。このおなご先生が眼病の子供の発見に役買って下さるというのです。先だっておなご先生に向けて行われた眼科医療セミナーでは、講師の話に熱心に耳をかたむけ積極的に質問する姿が見られました。そして辺境の村に帰ったおなご先生からは早くも眼病の子供発見の報告が入り始めています。今後はおなご先生のネットワークによる全国的な活動によって、ますます多くの子供の目を治せるよう頑張ってまいります。これからもヒカリカナタ基金の応援、よろしくお祈りします。



### 公益財団法人 ヤマト福祉財団

ネパールでの活動協力団体のご紹介【公益財団法人ヤマト福祉財団】様

ヤマト福祉財団は、心身に障がいのある人々の「自立」と「社会参加」を支援することを目的に、1993年9月に設立されました。様々な事業を通じ、障がい者の自立を支援するための活動をしています。財団の母体となっているのはヤマトホールディングス株式会社と、そのグループ会社、ヤマトグループ企業労働組合連合会、各グループ会社の社員と労働組合員、約20万人です。



## カンボジア小児眼科医療プロジェクト 新たな支援国カンボジア訪問 2019.10.27～10.30



今年度の事業計画でありました小児眼科医療プロジェクトは、竹内昌彦理事長をはじめとするヒカリカナタ基金メンバー7名と岡田名誉教授をはじめとする認定NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会チーム3名の総勢10名で関西空港発～シエムリアップ空港に向けてスタートしました。まずは、カンボジア王国を少しでも理解する為にもアンコール王

朝の残した数々の遺跡群を見学することと致しました。広大な密林に寺院や城、そして橋など“クメール建築”の最高傑作とも称されるだけの事はあり、スケールの大きさでもディテールでもまさに圧巻の一言でした。翌日プノンペンに移動し、今回眼科手術を実施して頂いたCSC (children's surgical center) という医療機関で施術と施設の説明、そして手術を見学させて頂きました。子供たちの目が生まれて初めて見える瞬間に立ち会う事が出来た訳です、感激と感動を



鮮明に覚えています。もう一つ、このCSCをご紹介頂いたのが認定NPO法人ジャパンハートと言う日本の医療チームでした。残念な事に今現在ジャパンハートでは眼科の治療をする施設が整っていないと言う事で今回はご紹介して頂いた訳ですが、しかしこのジャパンハートにもすごいパワーが有るので、感動でした。場所はウドンと言う町に”ジャパンハート子供医療センター”として、地域の医療機関の後ろに控えている病院なのです。地域医療を圧迫することなく、手に負えない高度な医療を必要とする時にはいつでも無料で診察診断治療を致しますからいつでもお越しくださいって感じなんです。なんか日本人に生まれた事に誇りを持ち、日本の先端医療にも感動を覚え、途上国に対する日本の姿勢を目の当たり致しました。

また、そのジャパンハートで活動をしている医療チームのお一人おひとりがすごい！堀内勇介事業部長をはじめ、我々をエスコートして下さった中村香南広報担当者、その他すべての医師、看護師、スタッフの方々が自分の立ち位置の役割と自己目標をもって従事されていました、皆さん無給なんです。

自己実現を完結する為の学びの場として多くの症例に出会い経験を積むことが目的なんです、日本人あっパレです。カンボジア特命全権大使を表敬訪問させて頂き、カンボジアの歴史と現状についてもご教授頂き大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。感謝です。

ここで、私と竹内理事長は一足先に帰国する予定でしたので、ハノイに移動し帰国準備に入る事になりました。

理事 吉原洋二



カンボジアでの活動協力団体のご紹介【認定特定非営利活動法人ジャパンハート】様

今期の新しい訪問国カンボジアでの活動に協力して頂く、「特定非営利活動法人ジャパンハート」は2004年に設立し、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念に 国、地域、人種、政治、宗教、境遇を問わず、全ての人が平等に医療を受けることができ、「生まれてきてよかった」と思える社会の実現を目指し活動しているNPO法人です。ヒカリカナタ基金もこの理念に賛同しご協力をお願いしました。



## 2度目のミャンマー 小児眼科医療プロジェクト 感動と再会 1019.10.31～11.3



私たちは、カンボジアからベトナム・ホーチミン経由で昨年に続き2度目のミャンマー・ヤンゴンに向かいました。子供たちの手術は、昨年と同じ国立ヤンゴン眼科病院で行われます。そこで懐かしいタン先生の優しい笑顔に迎えられ、一同ホッと安心しました。ドネーションセレモニーを行って頂きUS\$6000を寄付、谷口副理事長の挨拶の後、手術室に案内して頂きました。帽子・マスク・予防衣を着用後、手術に立ち会わせて頂き、2度目ということで昨年を思い出し、モニターを見ながら手術経過がよく分かりました。今回、8人の小児白内障の手術(片眼3人、両眼5人)が行われました。現在タン先生は、ヤンゴンで唯一小児白内障の手術が出来る医師です。そし

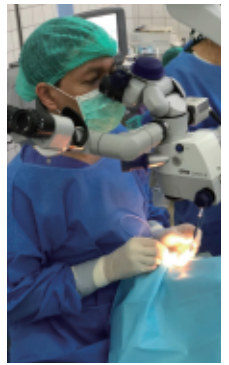


て嬉しい報告が！若い医師に手技を伝授して下さっていて、次回は、もっと大勢の子供たちの手術が出来そうです！翌日、術後の回診見学をさせて頂き、初めて見えるようになった瞬間に立ち会い、またまた感激です。どの子供たちも、短く「見える」と言って、はにかんだ笑顔になります。一番嬉しい瞬間です。また今回は、昨年手術を受けた8人の内5人の子供たちとご家族が健診を兼ねて、私たちに会いに来てくれました。子供たち全員が、1年で、明るくとももしっかりして、大きく成長したのを見て驚きました。『夢』を聞いてみると、エンジニアが2人、医師、学校の先生、画家、目が見えるようになったからこそその将来の夢でした。涙が止まりませんでした。この小児眼科医療プロジェクトの活動をやってる大きな意義を感じ、継続していかなければ！と心から思いました。今回も大変有意義な活動になり、ヒカリをカナタの子供たちに届けることが出来ました。応援・ご支援して下さいました皆様心から感謝申し上げます。後日、カンボジア・CSCから、斜視14人・眼瞼下垂5人・白内障4人合計23人の子供たちの眼科手術の報告がありまし



た。それぞれに感謝の言葉が添付され感激しました。CSC、プロデュースして頂いたジャパンハート、ご協力下さいました方々ありがとうございました。

理事 中川美登里



ミャンマーでの活動協力団体のご紹介【認定NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会】様

ミャンマーにおける医療人および医療協力者の育成を支援することにより、ミャンマーの医療の高度化を促進するとともに、グローバル化する疾病に対して、ミャンマーと日本を起点とし、アジア全域における共通した高度医療を実践できる体制を確立する MJCPに協力をお願いしました。

# 人の喜びを自分の喜びに

ヒカカナタ基金理事長 竹内昌彦



「ヒカリカナタ基金」は、途上国の目の不自由な子供たちに治療費を送る活動をしています。今までにモンゴル、キルギス、ネパール、ミャンマー、カンボジア、合わせて226人の子供の目に光を届けましたが、その中でも初期から支援してきた国がキルギスです。

以前、私はキルギスの盲学校を訪問した日のことを思い出して、次のような内容のメールを関係者に送りました。キルギスの盲学校の子供の目に手術を行うことができるでしょう。そのとき例えば5人の生徒がいるクラスで4人は手術ができる目で視力を回復することができたけど、残る1人の目は治らないとしたらどうでしょう。見えるようになった子供には「その目で困っている人を助けるようにしなさい」と言えますが、見えないままの子供はどうしたらいいでしょう。そ

の子にとっては悲しさと寂しさが増してくるのではないのでしょうか。答えは一つしかありません。その子は見えるようになった子に「おめでとう、よかったね」と言うことです。それができたら、その子にも幸せがやってきます。自分にもいいことがあったとき、みんなから祝福してもらえるようになります。妬みや恨みの中に幸せはありません。人の喜びを自分の喜びにすることができたとき、心は穏やかになり幸せになれる。さらに言えば、人に喜びを与えることができたとき、その幸せは大きく膨らみます。世界のニュースを聞いていると、大国ほどわがままでエゴを振り回しています。弱い国を踏みつけにするから、いつまでもテロに怯え安心することができません。いくら自国が繁栄しても、地球という船の底に穴が空いたら元も子もありません。弱い国、貧しい国を助けていたら、自分の国に困ったことが起きても、周囲から援助の手が差し伸べられます。「ヒカリカナタ基金」は、単に目の不自由な子供たちに光をおくることだけでなく、「困っている人を助ける喜びの中に幸せを見つけられる人」を増やしていく活動だと私は信じているのです。

## 賛助会員募集中!

【年会費】個人の方(1口) 3,000円  
法人の方(1口) 5,000円

何口からでも結構です。賛助会員の方からいただいた年会費が集まって、子供達の目の手術代となります。皆様のあたたかい思いやりをひとつに結集して、できるだけ大きな支援を遠い国の子供達に送り届けましょう!ご入会くださる方は、下記のいずれかの窓口から年会費をお振込ください。後日、メールか郵送で活動報告の広報誌をお届けします。来年以降の継続、退会は自由です。※年会費以外に、通常の寄付も随時受け付けておりますので、同じく下記窓口からよろしくお願いします。

### 銀行 金融機関

#### ■ ゆうちょ銀行お振込みのご案内

■ ゆうちょ銀行もしくは郵便局からの場合  
ゆうちょ銀行  
振替口座  
口座記号番号01380-4-106091  
口座名義特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金

■ 他の銀行、金融機関からの場合  
銀行名ゆうちょ銀行(金融機関コード9900)  
店名一三九(イチサンキユウ)(店番139)  
預金種目当座  
口座番号0106091  
口座名義特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金

### インターネット

■ 「ヒカリカナタ基金」ホームページから。 [www.hikarikanata.com](http://www.hikarikanata.com)

### 電子決済



PayPayをご利用の方は必ず入金情報を事務局までお知らせください。  
<金額、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、メールアドレス>  
**連絡をいただけない場合、どなたからの入金か不明となります。**  
ヒカリカナタ基金事務局の連絡先は下記参照ください。



NPO法人  
ヒカリカナタ基金

#### ◎事務局

〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-11  
Tel : 086-242-3535 / Fax : 086-242-3311  
E-Mail : npo@hikarikanata.com

[www.hikarikanata.com](http://www.hikarikanata.com)

ヒカリカナタ基金



竹内昌彦「ヒカリカナタ基金」  
[www.facebook.com/hikarikanatakikin](https://www.facebook.com/hikarikanatakikin)



竹内昌彦  
[twitter.com/masahikotakebot](https://twitter.com/masahikotakebot)